

2026年12月期第2四半期 決算説明資料

株式会社船場 証券コード:6540

1

決算の状況（2026年12月期第2四半期）

2

通期業績見通し

3

トピックス

4

参考資料

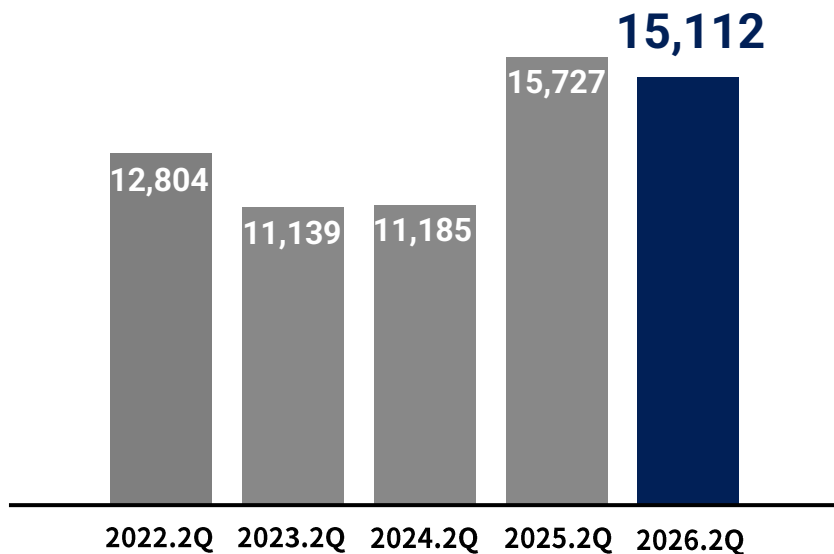
1

決算の状況（2026年12月期第2四半期）

業績ハイライト

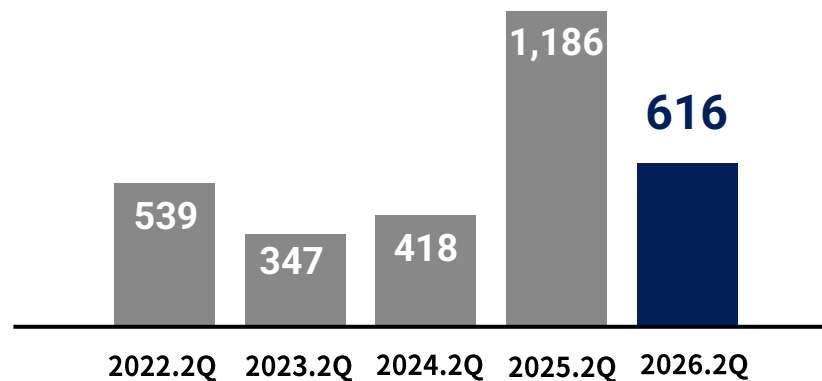
- 売上高は、前年同期に大型の福岡空港PJが売上計上された反動及び進捗スケジュールの変更に伴う売上計上時期の下期へのずれの発生もあり前期比減収となったが、期首計画比では概ね想定通りの進捗。
- 営業利益は、前年同期に売上高増加による利幅拡大及び高付加価値提供による収益性の高い大型物件の寄与などがあり高い水準であった。
今期は上記の反動及び今後の売上拡大に向けた体制強化に伴う人員増加などにより、主に人件費が増加し減益。

売上高



営業利益

[単位：百万円]



連結損益計算書

	2025.2Q		2026.2Q			ポイント
	金額[百万円]	構成比	金額[百万円]	構成比	前期比	
売上高	15,727	100.0%	15,112	100.0%	96.1%	前年の大型プロジェクト売上計上の反動及び進捗スケジュールの変更に伴う売上計上時期の下期へのずれの発生もあり減収
売上原価	12,639	80.4%	12,345	81.7%	97.7%	事業部門の体制強化に伴う人件費・工事経費増加により売上原価率が上昇
売上総利益	3,087	19.6%	2,766	18.3%	89.6%	減収及び原価率の上昇に伴い減益
販管費	1,901	12.1%	2,150	14.2%	113.1%	成長に向けた体制強化に伴う人員増加などにより人件費が増加
営業利益	1,186	7.5%	616	4.1%	52.0%	売上総利益の減少及び販管費の増加に伴い減益
経常利益	1,155	7.3%	704	4.7%	61.0%	営業利益の減少に伴い減益
親会社株主に帰属する中間純利益	761	4.8%	455	3.0%	59.8%	税金等調整前中間純利益の減少に伴い減益

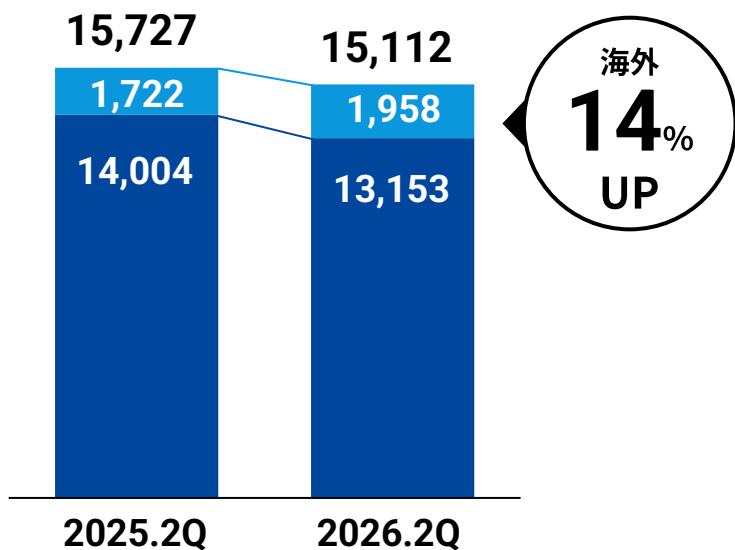
売上高：国内・海外 内訳

海外売上高は、台湾の継続した日系大型開発案件の進捗及びシンガポールの企業関連施設案件の売上計上などが寄与し伸長。

売上高推移

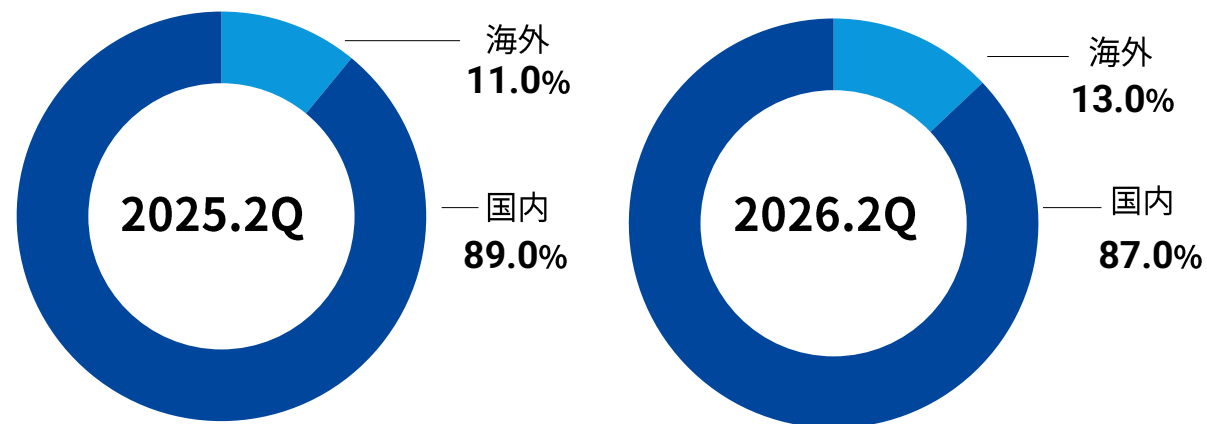
[単位：百万円]

■：国内 ■：海外



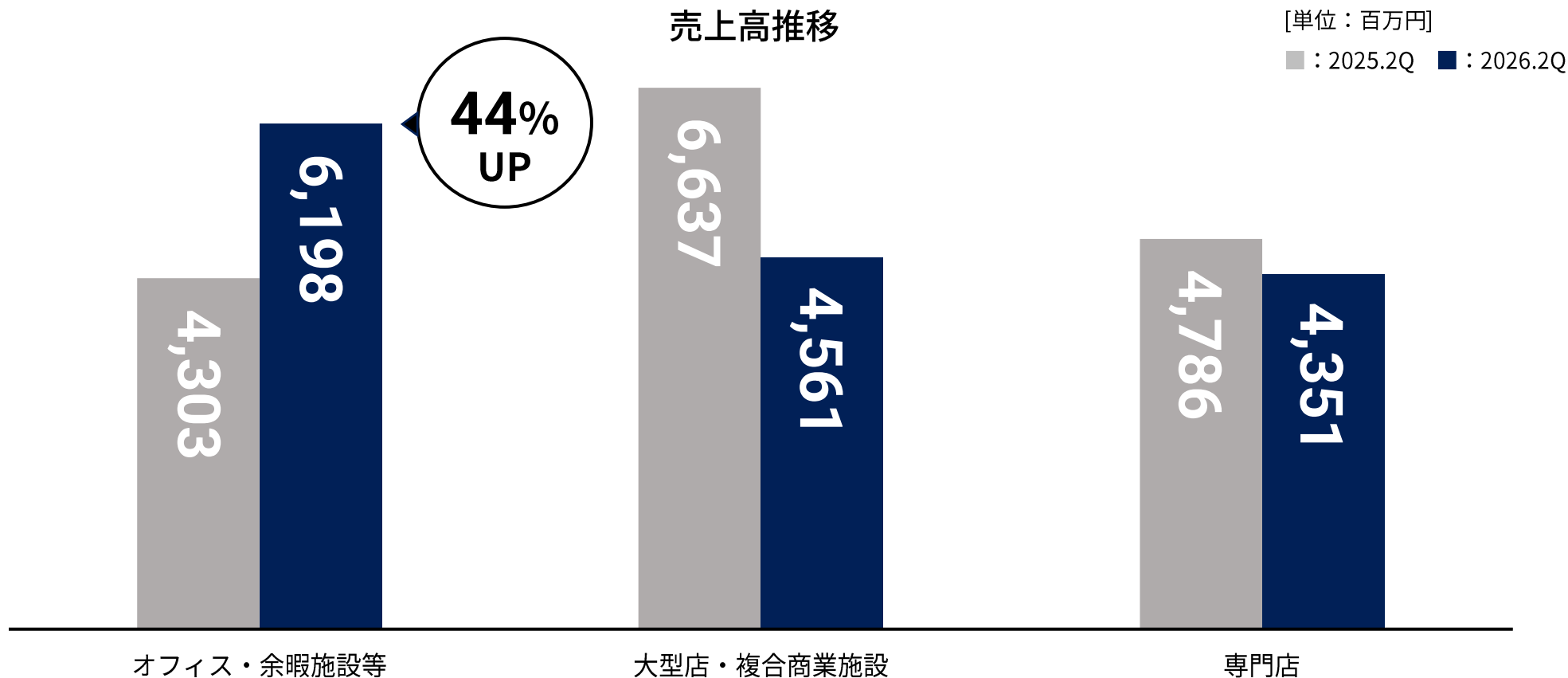
売上高構成比

■：国内 ■：海外



売上高：市場分野別 内訳

- 引き続き、マーケットが活況であるオフィス・余暇施設等の戦略的営業活動を推進しており、前年同期比44%の増収。
- 大型店・複合商業施設は、社内体制を整え受注拡大に努めるも、新規案件の数も少なく改装案件を中心に案件獲得を目指しているが、上半期での売上計上物件は少なく減収。



連結貸借対照表

	2025.12末		2026.6末			ポイント
	金額[百万円]	構成比	金額[百万円]	構成比	前期末比	
流動資産	19,840	89.6%	19,123	88.3%	96.4%	現金及び預金、棚卸資産が増加したものの前期末の売上債権の回収などにより減少
固定資産	2,298	10.4%	2,534	11.7%	110.3%	人員増に伴うオフィスリニューアル及び差入保証金などにより増加
資産合計	22,138	100.0%	21,658	100.0%	97.8%	
流動負債	7,110	32.1%	7,116	32.9%	100.1%	支払による仕入債務の減少などがあったものの契約負債の受取などにより増加
固定負債	438	2.0%	371	1.7%	84.7%	長期未払金の支払などにより減少
負債合計	7,548	34.1%	7,487	34.6%	99.2%	
純資産	14,589	65.9%	14,170	65.4%	97.1%	親会社株主に帰属する中間純利益の計上があったものの配当金の支払などにより減少
負債純資産合計	22,138	100.0%	21,658	100.0%	97.8%	

連結キャッシュ・フロー

	2025.2Q	2026.2Q		ポイント
	金額[百万円]	金額[百万円]	前年同期差額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,191	4,024	6,216	税金等調整前中間純利益の計上、前期末の売上債権の回収が進んだこと、前期は一過性の支払サイト短縮の仕入債務の減少などもあり62億16百万円の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△135	△269	△133	人員増に伴うオフィスリニューアルなどにより1億33百万円の減少
財務活動によるキャッシュ・フロー	△745	△812	△66	配当金の支払増加などにより66百万円の減少
現金及び現金同等物 増減	△3,099	3,032	6,132	
現金及び現金同等物 期首残高	11,949	9,149	△2,799	
現金及び現金同等物 当期末残高	8,849	12,182	3,332	前年同期末に比べ33億32百万円の増加

受注残高：市場分野別 内訳

- 各市場分野ともに前年同期と比べ受注残高は順調に増加。
- 特にマーケットの活況が続くオフィス・余暇施設等については大型案件の獲得もあり大きく増加。

市場分野	2025.2Q末	2026.2Q末	
	金額[百万円]	金額[百万円]	前期比
専門店	2,521	2,611	3.6%
大型店・複合商業施設	2,031	2,174	7.0%
オフィス・余暇施設等	3,558	5,263	47.9%
計	8,111	10,049	23.9%

2

通期業績見通し

2026年12月期通期見通し

- 2025年の特殊要因（上期に福岡空港PJを売上計上）を除き、近年の売上高は下期偏重の傾向があり、当期の通期業績予想は期首より下期偏重の計画。
- 計画通りの進捗及び現時点の受注残高からも、通期業績予想値は据え置き。

第2四半期末
受注残高

4,210

6,507

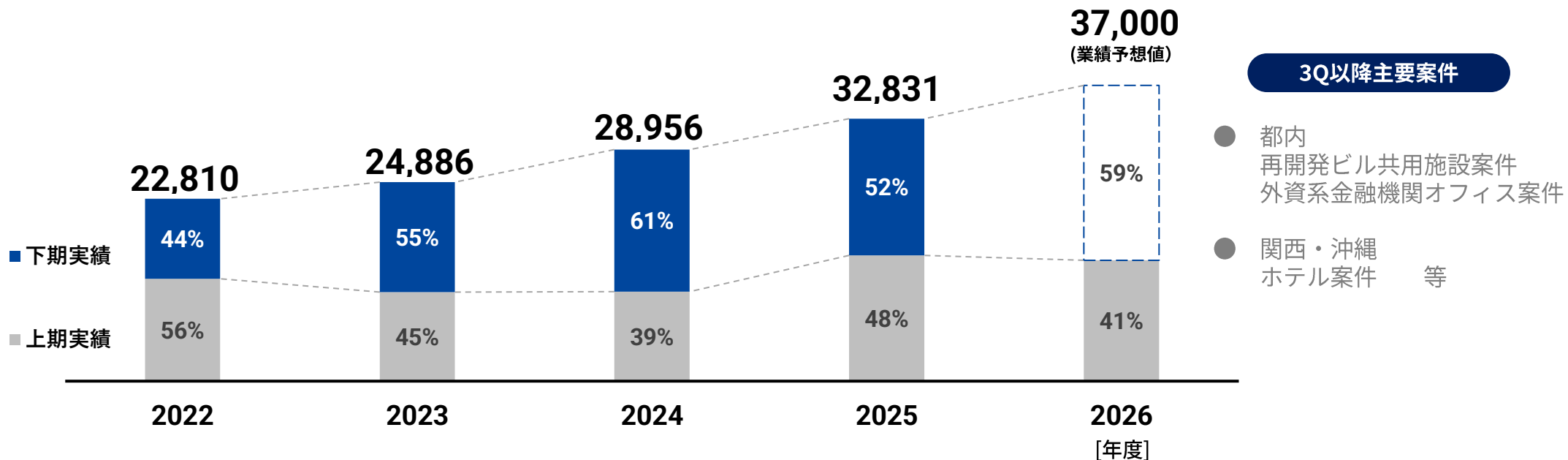
8,770

8,111

10,049

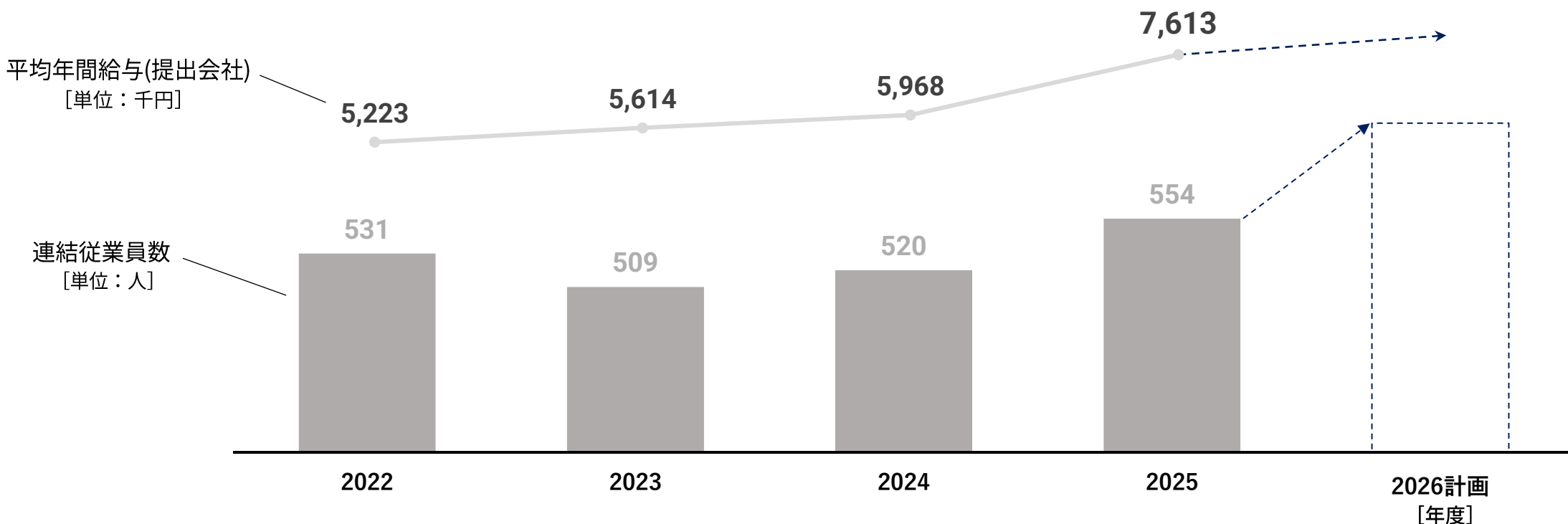
通期売上高の上期・下期構成比

[単位：百万円]



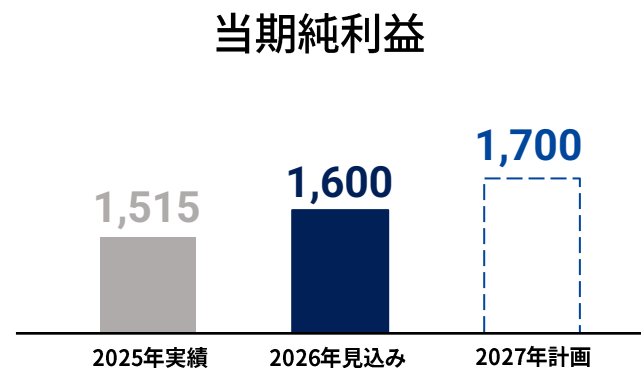
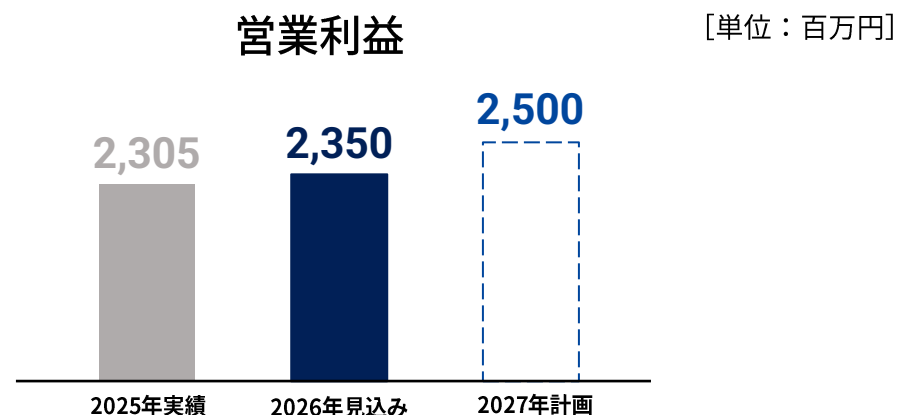
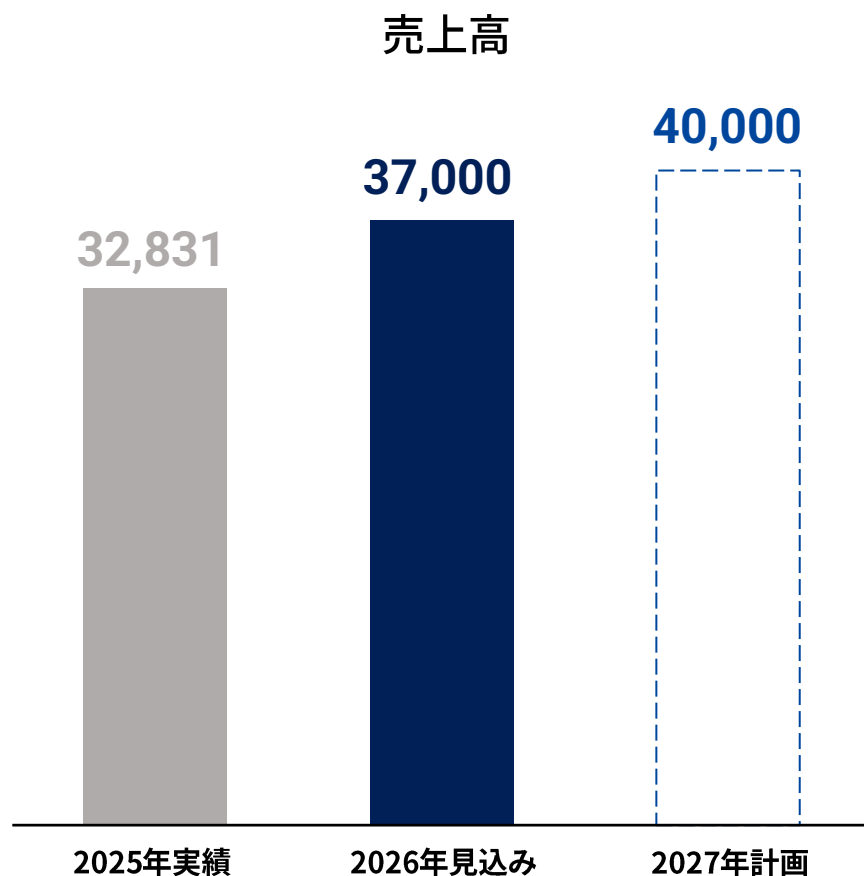
中期経営計画2027 業績目標達成に向けた人材戦略

- 当社の事業は人材と密接に連動しており、各職種において即戦力レベルを中心に採用を強化。採用は順調に進捗中。
- 人材獲得競争激化に対応するための社員のベースアップなどもあり、平均年間給与が増加。今期も成長に向けた体制強化に伴う人員増もあり、人件費は増加傾向だが、期首計画の概ね想定通りで推移中。



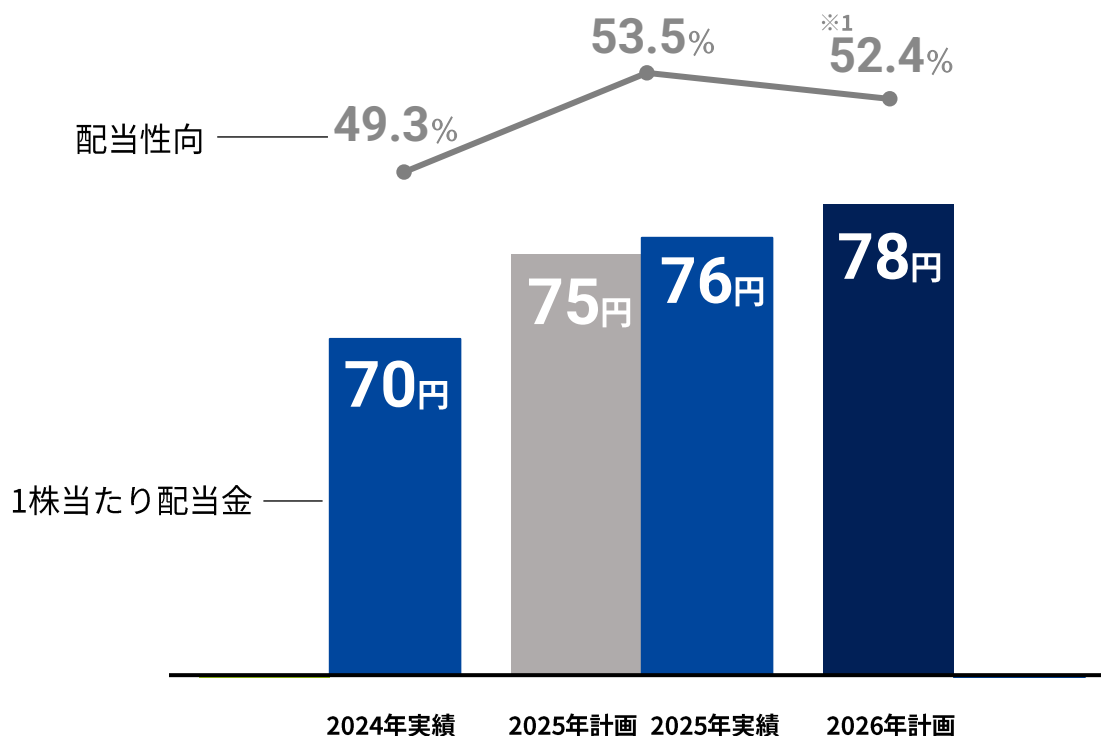
2026年12月期 通期見通し及び中期経営計画2027最終年度業績計画

■ 今期の通期業績予想値の達成を見据えながらも、中期経営計画2027における2027年度売上高400億円を目指し、売上拡大に向けた体制強化を図り更なる成長へ



配当計画

■ 中期経営計画2027で掲げる配当性向50%以上を目標に、2026年は2円増配の1株当たりの配当金78円を計画



株主の皆様に対する利益還元を最重要経営目標の一つとする基本方針を踏まえた株主還元の実施

中期経営計画2027（2025～2027年）目標

配当性向

50%以上

※1 2026年計画の配当性向は2026年12月期予想ベース

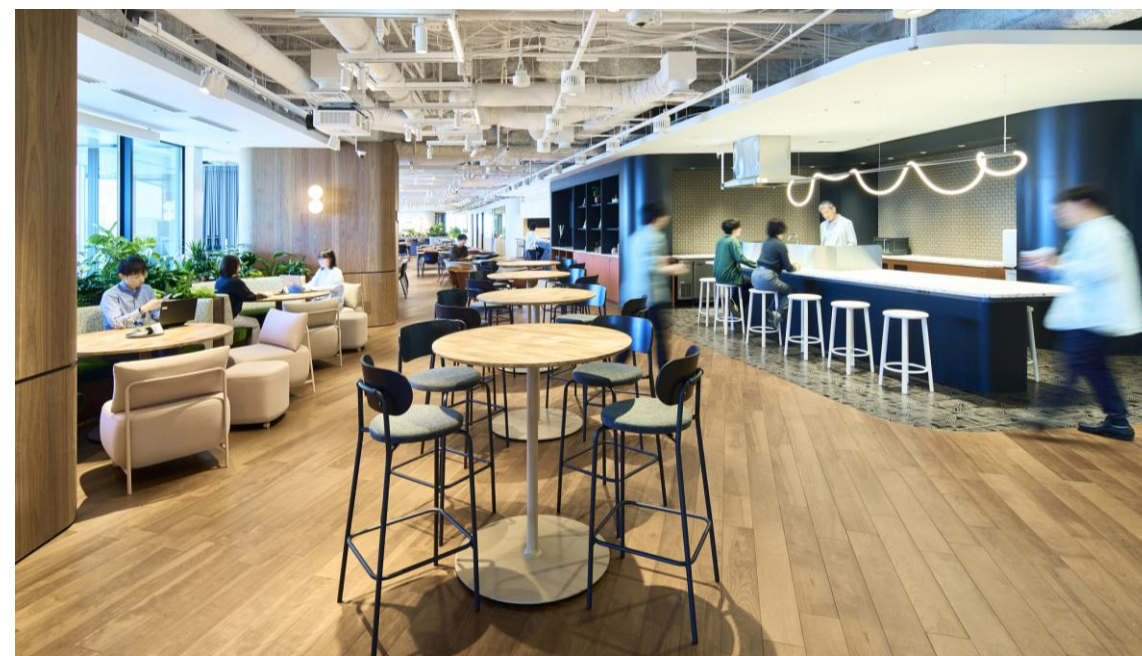
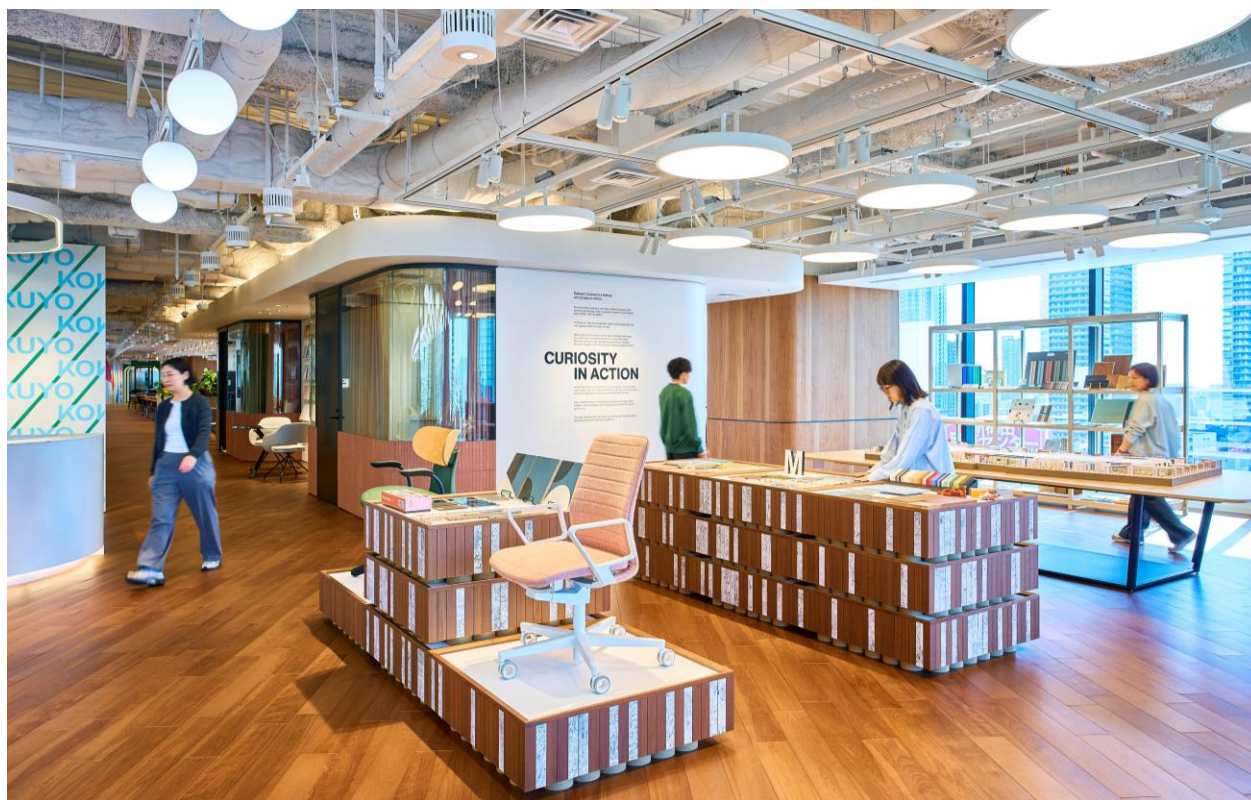
3

トピックス

オフィス・余暇施設等

エシカルデザインで唯一無二の空間を創造 コクヨの新本社 KOKUYO HQ の空間創造に参画

当社は、コクヨ(株)の新本社 KOKUYO HQ の空間創造に参画し、エントランス・カフェ・ショールームエリア・執務スペースの実施設計、施工を担当。当社の強みである「エシカルデザイン」を活かし、コクヨ製品の製造過程で生じる廃材や不用品をアップサイクルしたオリジナル什器を手掛けました。不用品が新たな価値へ変換されるプロセスそのものや、多様な触り心地、唯一無二のデザインを通じて、来訪者や社員に「新しい発見」をもたらす空間を創り上げました。



オープン：2026年6月
所在地：大阪府大阪市北区
クライアント：コクヨ(株)
担当業務：エントランス・カフェ・ショールームエリア・執務スペースの実施設計、施工、総合管理業務、
家具什器デザイン・制作
写真提供：コクヨ(株)

未来に向けた挑戦と成長を支えるオフィス 日本空港コンサルタンツ本社

(株)日本空港コンサルタンツ本社のオフィス増床プロジェクト。社員の挑戦を後押しし、未来志向の組織づくりを支えるオフィスをデザインと機能の両面から実現しました。共有エリアのシンボルカウンター上部に設けた円形吊り造作の縦ライン照明は、滑走路で飛行機を誘導するパドルから着想。オフィス空間全体のアクセントとして、空港をモチーフにした意匠を随所に取り入れ、機能面では、会議室前の隙間空間を活用するなど、多様なワークスタイルに対応する環境を整えました。



オープン：2026年5月
所在地：東京都中央区
クライアント：(株)日本空港コンサルタンツ
担当業務：内装デザイン・設計、制作・施工、BIM
撮影：Katsuhiro Aoki

[>BIMで設計したバーチャルプロモーションムービーはこちら](#)

オフィス・余暇施設等

海洋プラスチック問題解決の最前線拠点 世界海洋プラスチックプランニングセンター (PLA PLA)

佐賀県唐津市・波戸岬に開設された、海洋プラスチック問題を学び、考え、行動につなげるための世界初の専門拠点。当社では、体験型展示コンテンツの企画からデザイン・設計、制作・施工までを一貫して担当しました。地域で回収された海洋プラスチックや不要となった漁網をアップサイクルし、展示什器や空間演出の一部に活用。また、映像やジオラマをはじめとする多様な体験型コンテンツにより、海洋プラスチック問題の深刻さを伝えるだけでなく、海洋プラスチックを「新たな資源」として捉え直し、来館者一人ひとりの行動変容につなげる展示空間を創出しました。

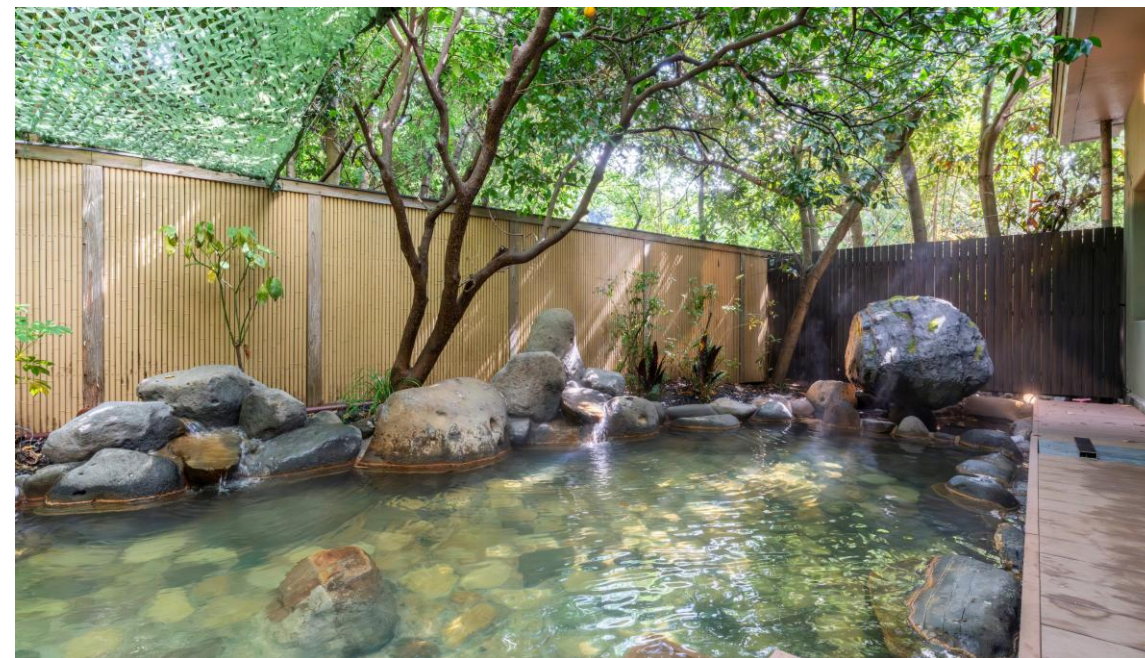


オープン：2026年6月
所在地：佐賀県唐津市
クライアント：佐賀県
担当業務：展示コンテンツの企画、デザイン・設計、制作・施工
撮影：ボックスグラフ

オフィス・余暇施設等

施設の魅力を磨き上げ、温泉の価値を最大限に引き出す空間 源泉一途 南伊豆

1990年に静岡県南伊豆町で開業した下賀茂温泉 花のおもてなし南楽を、コアグローバルマネジメント(株)の新たなホテルブランド第1号店 源泉一途 南伊豆としてリニューアル。当社は、客室・レセプション・レストラン・大浴場の実施設計および施工を担当しました。客室は古民家調の趣から和モダンなデザインへと刷新し、上質で落ち着きのある空間を創出。また、大浴場ではデッキや擬岩を製作し、源泉を引き立てる設えを施すことで、温泉の体験価値を高めました。下賀茂温泉の豊かな自然と良質な源泉の魅力を引き出し、湯に癒やされるひとときを五感で味わえる滞在空間を実現しました。



オープン：2026年6月
所在地：静岡県賀茂郡南伊豆町
クライアント：SMFLみらいパートナーズ(株)
担当業務：実施設計、制作・施工
撮影：住宅撮影.com

内装BIMの次なるフェーズ「BIM Level 5」を独自定義

当社では、内装・ディスプレイ業界においていち早く2019年からBIM推進を開始し、DX戦略の中核として取り組んでまいりました。2025年にはAutodesk社とのMOU締結を契機に、設計・施工に関わる業務データの一元管理環境の構築や、内装BIM教育のサービス化にも挑戦。こうした取り組みをセミナー登壇やメディア掲載を通じて社外にも発信し、デジタル推進に積極的な企業としての認知向上にも繋げています。今回、当社は「BIMレベル5から逆算したBIM経営」をテーマにレポートを発信し、BIMとAIがもたらす未来の空間づくりの可能性を示しました。今後はSEMBA BIM 3C戦略のもと、社内で培った知見を業界全体へ広げ、BIMとAIを活用し、新たな価値創出と企業価値の向上に貢献していきたいと考えています。



■資料概要

タイトル：BIM Level 5から逆算したBIM経営

公開日：2026年6月23日

資料は[こちら](#)

※内装ディスプレイ企業向け内装BIM教育サービス説明会

4

参考資料

企業概要

会社名	株式会社船場（英文名称：SEMBA CORPORATION）
代表者	代表取締役社長 小田切 潤
創 業	1947年（昭和22年7月）
設 立	1962年（昭和37年2月）
所在地	〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館 9F
事業内容	空間創造における調査・分析、コンセプトメイキング、企画・コンサルティング、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出、メンテナンスならびに施設運営。 大型商業施設や飲食店といった商空間から、オフィス、教育、ヘルスケア、ホテル、余暇施設など幅広い分野において、国内及び海外5拠点で事業を展開。「未来にやさしい空間を」をミッションに、空間創造の全プロセスを一貫してサポートしていきます。
従業員数	船場グループ592名 （2026年6月末）

展開拠点 アジア圏に広がるグループネットワーク

海外拠点

台湾（1987年設立）

シンガポール（1990年設立）

上海（2006年設立）

ベトナム（2013年設立）

マレーシア（2019年設立）



東京本社

支店

北海道・仙台
名古屋・大阪・福岡

生産工場

出雲・熊本

地域法人

青森・鹿児島・沖縄

企業理念

SUCCESS PARTNER

Vision

Good Ethical Company**気のあうエシカルな仲間たち**

空間創造で培ってきた人への配慮や思いやりの姿勢を、地域や自然環境にまで広げ、

より良い社会の構築を目指すエシカルな存在になります。

さらに、私たちの想いに共感する仲間を増やし、循環型社会の共創を目指します。

Mission

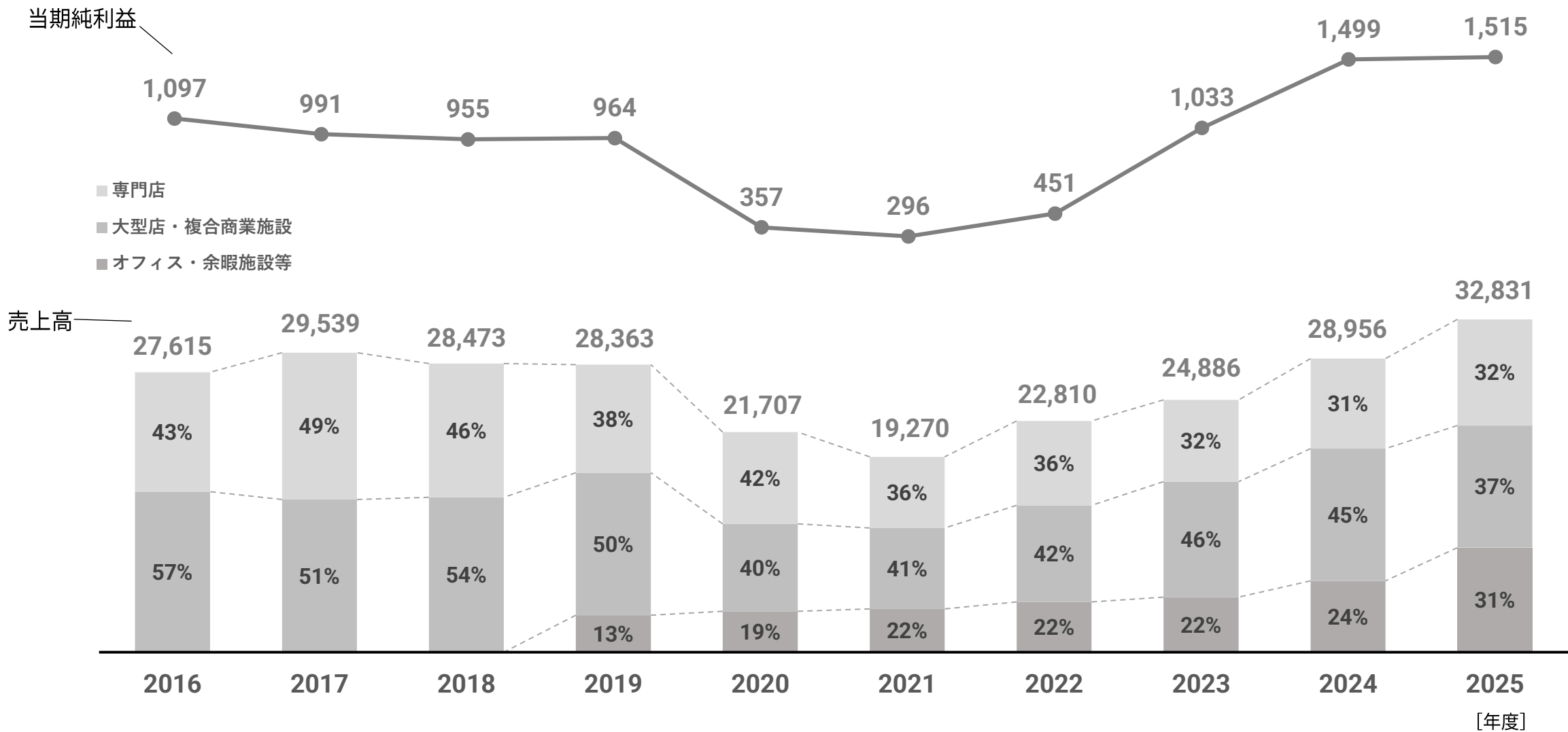
未来にやさしい空間を

利便性や効率、見た目だけを考えるのではなく、サステナビリティを意識した

地球に負荷をかけないという本質的な価値を持つ空間を未来に残していきます。

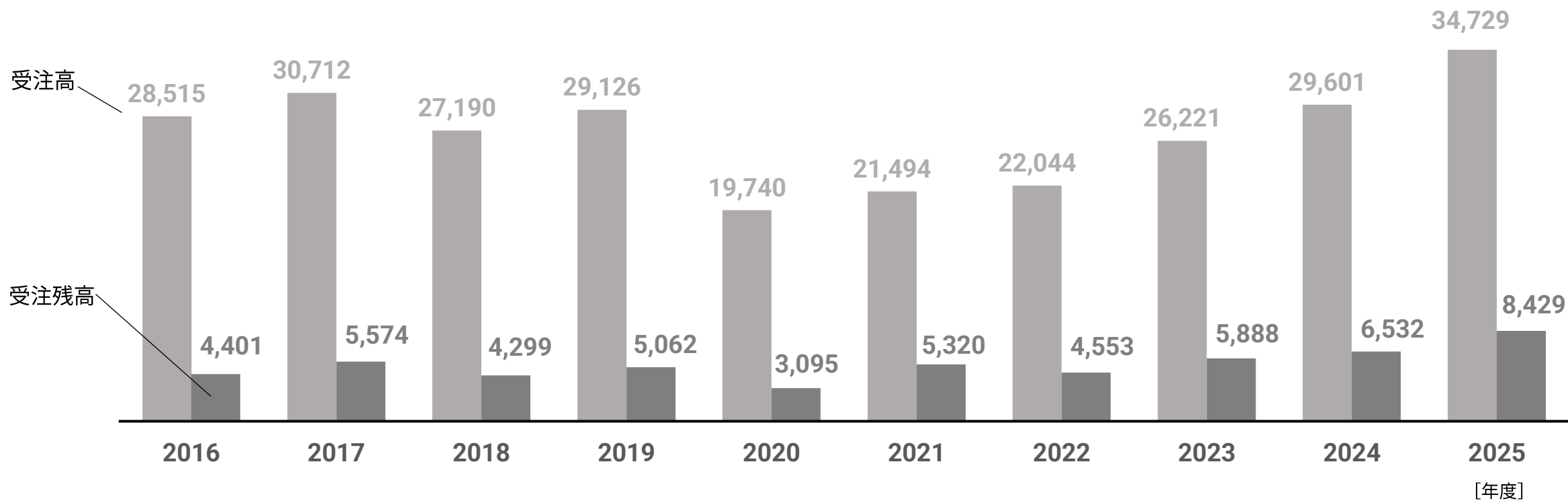
上場以降の売上・当期純利益推移

[単位：百万円]

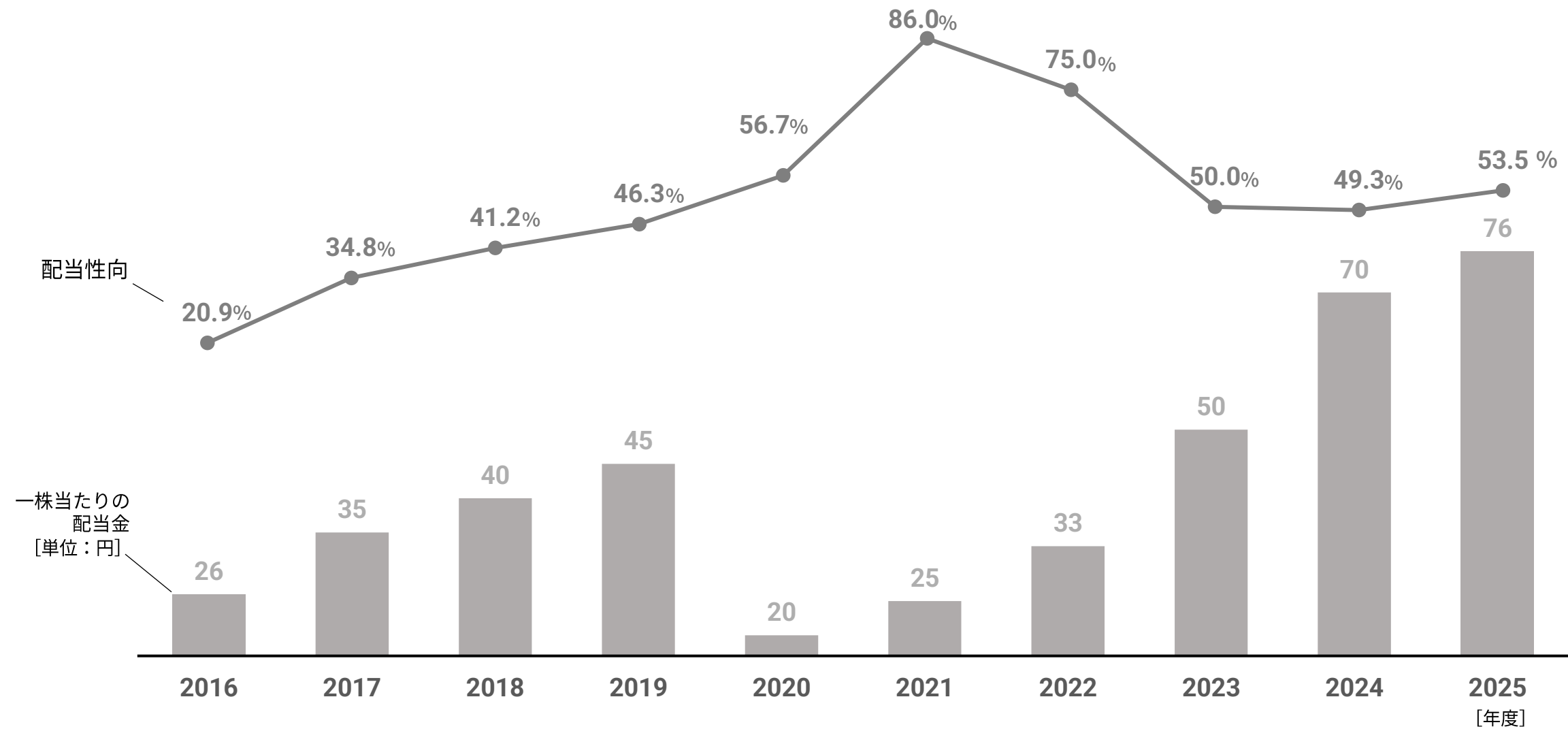


上場以降の受注高・受注残高推移

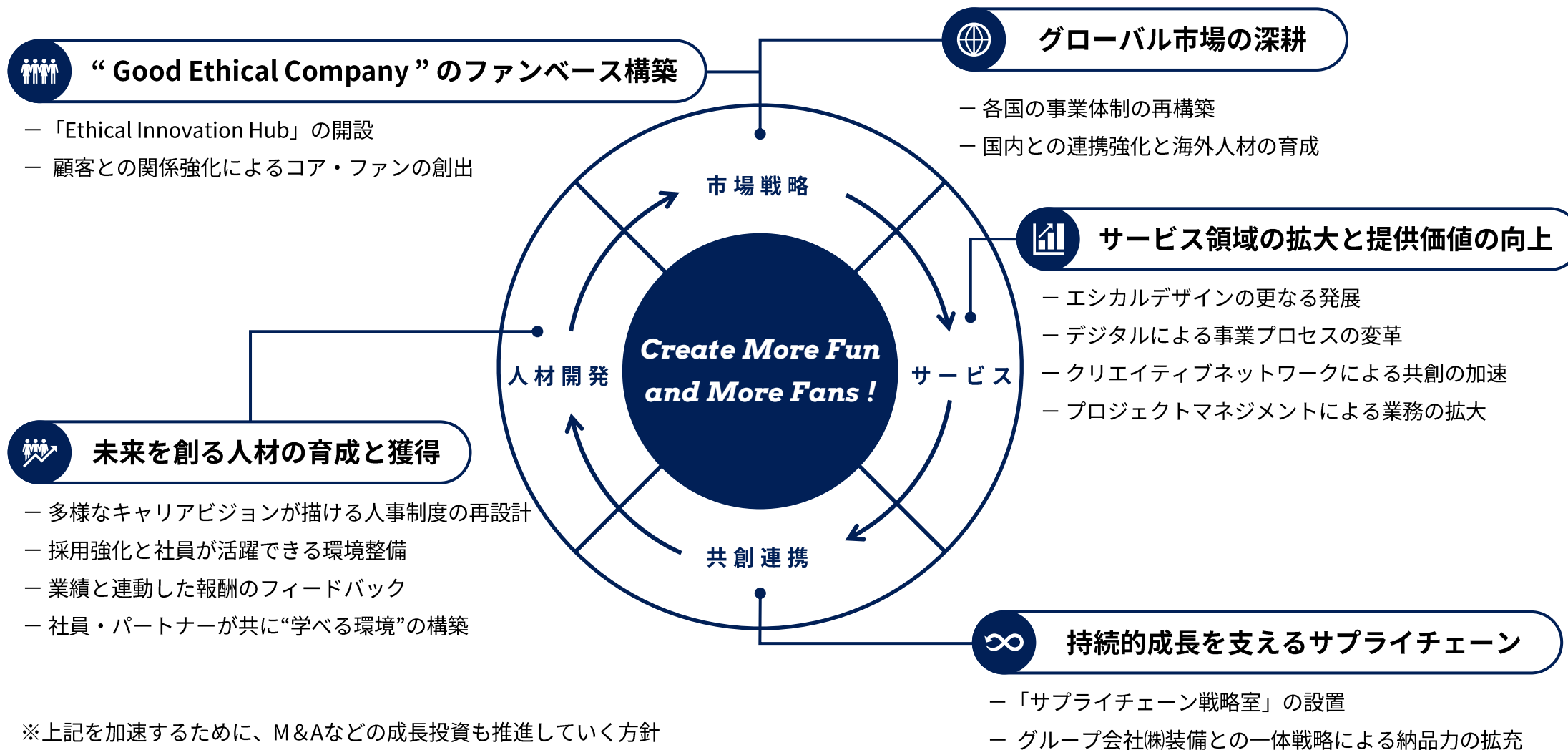
[単位：百万円]



上場以降の配当推移



中期経営計画2027における施策相関図



中期経営計画2027 財務目標

中期経営計画2027 最終年度目標

売上高	400 億円
営業利益	25 億円
純利益	17 億円

中期経営計画2027（2025～2027年）目標

配当性向	50 %以上
ROE	10 %以上

- 積極的な成長投資による企業規模の拡大、利益率の向上及び企業価値向上（人材戦略、DX戦略、海外戦略、M&A戦略）
- 資本構成の最適化による資本効率の改善
- 株主の皆様に対する利益還元を最重要経営目標の一つとする基本方針を踏まえた株主還元の実施

【ご注意事項】

本資料は、将来に関する見通しや計画に基づく予測が含まれております。
これらの予測及び見通しは、リスク及び不可実性を内包するものであり、
その実現を保証するものではありません。
実際の業績等は、様々な要因により記載の予測と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

株式会社 船場 経営企画部
E-mail : ir@semba1008.co.jp